

豊潤の里 だより

栗本HDが「地権者会」を設立!?

～ 土地取得に向け本格化か ～

10月中旬、産業廃棄物処分場建設予定地の地権者の方から情報提供がありました。ここ半年余り栗本ホールディングス(栗本HD)の地域内での動きが表面に出てきてなかったもので、心配していたところでした。

今回の情報は、栗本HDが一部の地権者に声掛けし「木谷産業廃棄物処分場建設地権者会(地権者会)」が作られたことです。この会には事務局が置かれ、地権者の身内が事務局員(町外在住)になっています。

その事務局員が木谷在住の地権者を回り、「食事を共にしながらの説明会」への出席を執拗に誘ったようです。なかには一人暮らしの高齢者の地権者もおられ、とても不安に思われたとも伝え聞きました。この説明会は10月28日(土)、マイクロバスが迎えにきて西条の料亭で行われました。数名出席されたようです。

情報を提供して下さった地権者の方は、「行きやあせん!」と言われました。その後、説明会で使われた「資料」を、栗本HDは欠席地権者へ配布しました。その一部は以下のとおりです。

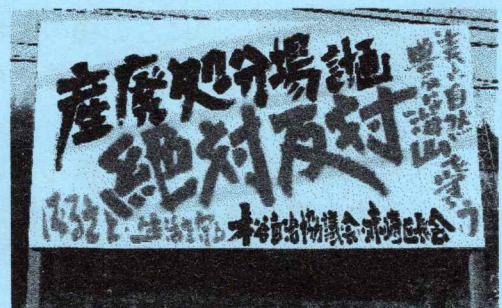
- 「エコフロンティア木谷概要説明書」
※「エコフロンティア木谷」とは産廃処分場の名称らしい
- 「木谷地区・地域活性化案」他

要するに、栗本HDは、安心・安全な施設であること、産廃処分場ができれば木谷地域は活性化するということを、地域に思い込ませたいだけです。その中身については話になりません。なぜなら「産廃」は赤崎には要らないからです。産廃反対実行委員会顧問の大成秀和さんのことばを思い出します。

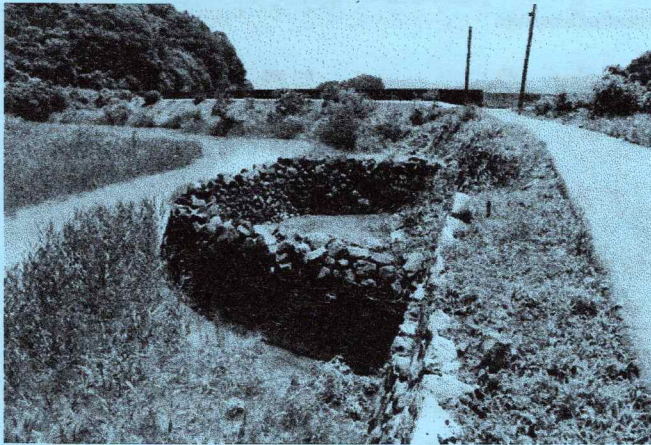
「『産廃』は有害物質を含むものであり、その取扱いは厳格な基準やマニフェストが法で定められています。…『産廃』は『赤土』には絶対ならない。『産廃』は、赤崎には要りません」

この度の栗本HDによる「地権者会」の設立は、木谷・赤崎地域に分断をかけるものとしか考えられません。木谷・赤崎地域はお互いに助け合いの風土があり、町内のかたから、まとまりのよい土地柄とよく言われます。

栗本HDによる処分場計画が来なければ、こんなことにはならず、静かな田舎だったはず。栗本HDによって地域が二分されないよう、お互いの思いをしっかりと聞きながら、このことに対処していきましょう。きっと何か良い知恵が見つかるはず。です。



ふたまでえんでんあと ひのわ 「二馬手塩田跡 樋の輪」が市の指定史跡に



令和5(2023)年7月27日、赤崎地区の二馬手塩田跡にある「樋の輪」が東広島市史跡に指定されました。二馬手塩田跡の「樋の輪」は、他地域のものとは比べて大き目の石が粗く積まれていることから、古い姿を留めている可能性があると考えられるうえ、遺構と文献史料が揃って受け継がれてきたことが、高く評価されたものです。

【概略の紹介】(市のホームページより)

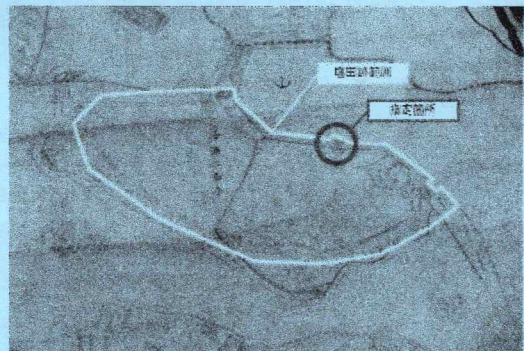
安芸津町には江戸時代から近代にかけて8カ所の塩田が開発された。そのうちの一つである木谷村の二馬手では江戸時代の元禄期(1688~1704)に入浜塩田が開発され、昭和5年(1930)の廃止まで運営されていた。

「二馬手塩田跡 樋の輪」は、その入浜塩田の遺構の一つであり、塩田堤防下部に設けられた樋口(塩田に海水を取り込むための取水口)を、海の風波から守るために作られた石堤である。半円形の石積で樋を囲み、かつ石の間から海水が自由に出入りできるように、比較的粗めに積まれている。

樋の輪がいつ頃生まれ、どのように拡大したのかは、学術上ほとんど明らかではないが、明治16年作成の木谷村地籍全図にこの樋の輪が描かれており、少なくともそれ以前、江戸時代の築造と推測される。

また大き目の石を比較的粗く積んでいることから、瀬戸内地域の類似事例のものと比較して、より古い姿を残している可能性が高い。

安芸津町の塩田の遺構はほとんど残っていないが、その中であって本物件は遺構と史料がともに伝来し、塩田の歴史を学ぶことができる貴重な事例である。



木谷村絵図(二馬手塩田跡付近:明治初期)



空中写真(二馬手塩田跡付近:令和2年)

市民スポーツ大会、新種目にも参加



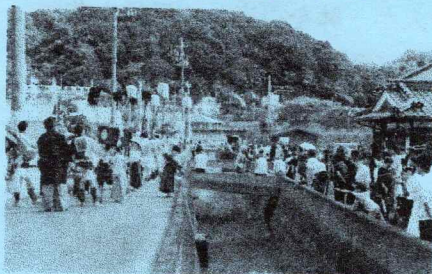
今回から正式種目になった。ベタンク競技。木谷チームは小学生と一緒に団体戦を戦うので負けられないと頑張りました。



慣れない芝生での競技もあり苦戦しました。グラウンドゴルフ。

9月24日、第35回東広島市民スポーツ大会（球技の部）が開催されました。木谷チームはソフトボール、グラウンドゴルフ（男・女）、ソフトバレーボール（女）、室内ベタンクに参加（今年は男子ソフトバレーボールには不参加）。陸上の部の成績も合わせた総合成績は、169点で32チーム（小学校区単位）中23位でした。

木谷フェスティバルと5年ぶりの大名行列



コロナ禍後初の大名行列。それを見守る人々の眼差しに、戻って来た日常を感じました。



飲食コーナーは地域の人の交流の場。あちこちから談笑の声が聞こえていました。

10月15日、5年ぶりに大名行列のある重松神社の秋祭りが行われ、沿道で多くの人々が見守りました。秋祭りを応援する木谷フェスティバル（主催：木谷自治協議会・木谷地域まちづくり実行委員会）も開催され、会場の砂原公園にはキッチンカーを含む10の露店が並びました。行列の一行が公園内に設けられた御旅所に到着すると盛り上がりは頂点に。

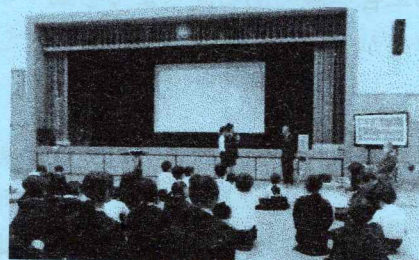
木谷小学校の歴史について 教育講演会



木谷の生い立ち

木谷小学校の歩み

講演のスライドの最初の画面（現在の木谷小学校の様子）。



講演後、児童からの感謝の言葉が。

10月28日、木谷小学校の創立150周年を記念する教育講演会が開かれました。講師は元木谷小学校校長の植野洋文さんで、演題は「木谷の生い立ちと木谷小学校の歩み」でした。明治6年6月25日、「駿々舎（しんしんしゃ）」という校名で始まった創設時の木谷小学校。駿々とは「どンドン進む」様子を表わすことばで、明治という新しい時代に育つ子ども達への期待を、校名に託した木谷の人々の熱い思いが伝わってくるようです。それから150年、小学校は今地域や家庭と共に、個性を尊重しつつ次の時代を生き抜くたくましい子どもたちを育てる役割を担っています。

＜共同主催：木谷自治協議会・木谷小学校・木谷小学校PTA＞

赤崎海岸沿いの道の草刈りと枝切り

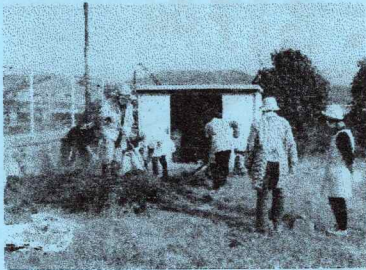


(写真提供：東広島市役所安芸津支所)

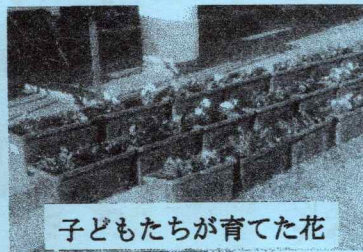
10月8日、赤崎自治会が赤崎海岸道路の草を刈り、通行の妨げになっている樹木の枝を切りました。西・中・東の各赤崎地区から計37名がチェーンソーや草刈機、鎌を持ち寄り、約4時間かけて作業を行いました。日頃この道路を利用している地元の人たちはもちろん、景色のよさに魅かれて赤崎海岸を訪れる人たちも安全・快適に通行できるようになりました。

部会活動紹介

福祉生活部会



10/16 プランターの土を入替え



子どもたちが育てた花

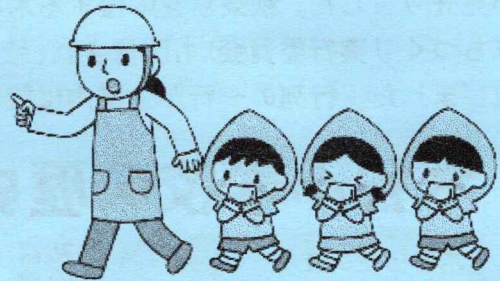
児童一人が一鉢を担当して学校を花で飾る活動。そのお手伝いをと学校関係者を含む9名でプランターの土を入替えました。今、こども達がパンジーやビオラを育てています。

<木谷地区社協 蛟龍>

防災安全部会

10/17 保育所の避難訓練をお手伝い

地震と津波を想定した避難訓練が木谷保育所で行われました。最初に園児たちは、地震発生の放送や先生の説明を聞いて、机の下に隠れ、防災頭巾を着用して園庭に避難しました。そのあと、津波が発生したとの想定で避難場所の木谷トンネル西側の早目地蔵のある高台まで移動する際、防災安全部のメンバーが避難誘導のお手伝いをしました。



体育振興部会



11/17 楽しみながら体力維持がノグラウンドゴルフ大会 小春日和の下、19名の参加者が集いグラウンドゴルフ大会が開催されました。今回は8ホールを2回まわる競技でしたが、ホールインワンが5人で6回もあり、そのたびに歓声が上がりました。楽しみながら体を動かすことが、知らず知らずのうちに体力維持にも繋がります。

<主催：木谷自治協議会 協力：木谷青空会>

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和5年10月末現在	684	1423	697	726
令和4年10月末との比較	-4	-45	-22	-23